

ふりがな 氏名	あらみや わたる 新宮 済	都道府県	奈良県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良市立平城小学校 教諭 ・奈良ESDコンソーシアム 			
私のESD活動	奈良大好きっ子にするために、人・もの・ことと出会う授業づくり、奈良ユネスコ青年部の子どもキャンプ運営			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

以前世界遺産のある奈良県斑鳩町で発掘調査員として働きました。教員になって子どもたちに地域にあふれる文化財の素晴らしさを伝えたいと思い入学した奈良教育大学教職大学院で新たにESDと出会いました。これまでの活動は以下の3つです。

1、奈良教育大学ユネスコクラブの立ち上げ・・・ 学生時代に学びを深めるためにユネスコクラブを立ち上げ、市内のユネスコスクールのESDに参画し、奈良ESDコンソーシアムの子どもキャンプの企画・運営を続けています。

2、陸前高田市文化遺産調査成果の教材化・・・ 「文化遺産がほとんど海へ流された町に希望を」という依頼を受けて始まった大学の陸前高田市浄膳寺の文化財調査に参加しました。発見された墨書から「陸前高田市と小笠原諸島との結びつき」が明らかになりました。この成果を教材化し教育委員会や地元の方に送りました。この教材が、地域の歴史を誇りに思い、地域を大切にすることを養い、持続可能で住み続けたい地域社会づくりの担い手になりたいという気持を育てることに寄与できるように、研究報告「陸前高田市文化遺産調査におけるESDの教材開発」を奈良ESDコンソーシアムで発表しました。

3、地域の博物館と連携したESD環境教育・・・ 昨年から奈良県川上村の博物館「森と水の源流館」と平城小学校が協同して、「人・もの・こと」と出会う社会科の授業づくりを始めています。「森と水と人のつながり」を学ばせるために、川上村の間伐材で作られた割りばしを調べ、森と水を守る様々な人に出会える授業をつくりました。この取り組みを環境省近畿地方環境事務所が行う「ESD:命をつなげる教育フォーラム 2016 夏」で実践報告をしました。

○研究報告「陸前高田市文化遺産調査におけるESDの教材開発」 <http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2013>

○「奈良ESDコンソーシアム」実践事例集 博物館との共同研究授業指導案

http://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/esd/index.php?action=cabinet_action_main_download&block_id=54&room_id=1&cabinet_id=6&file_id=104&upload_id=252

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

私は今後奈良の博物館と連携したESD教材開発を行い、地域の歴史・環境を思い、地域を大切にすることを養い、持続可能で住み続けたい地域社会づくりの担い手になりたいという気持を育てていきたいです。そのためには「人・もの・こと」に出会うことが大切です。博物館と連携をすることで、様々な方面からの出会いをつくることができます。私は以前埋蔵文化財の仕事をしていたので、博物館の方々の、文化財を守り後世へ伝えようとする考え方とESDの考え方は同じように感じます。また、学校も博物館も教育活動で協同したいと思いつながりながらも様々な制約に追われています。そこで両者の立場を経験した自分の強みを活かして、博物館と学校をつなげ協同した実践に挑戦します。その実践を大学機関などで発表することで、博物館との協同した授業開発に興味を持った教師と博物館をつなげる役割を担いたいと考えています。地域の博物館と連携するESDを進めていくためには奈良の事例だけではなく全国の事例や実践者の見方・考え方を集めることが必要と考えます。私は昨年度のコンファレンスでもあった「私の活動紹介」で、奈良県川上村の博物館「森と水の源流館」と授業をつくるなかで、悩んでいることや課題を共有し意見をもらいたいです。また出た意見を奈良ESDコンソーシアムで紹介し、全国の実践家の見方考え方を奈良で共有していきたいと考えます。